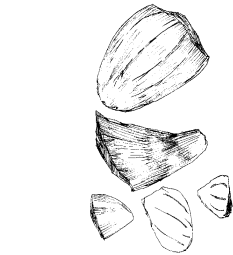


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説			
せー23	せんざんこう 穿山甲  ミミセンザンコウの甲羅片	鹹・微寒 肝・胃 通経下乳 瘀血による無月経、腹腔内腫瘤に、 当帰・赤芍・紅花・大黃 などと用いる「穿甲散」。 産後の乳脈不通による乳汁鬱滞、分泌不全に、単味の粉末を酒で服用するか、 王不留行・当帰・通草 などと用いる「涌泉散」。 消腫排膿 癰腫（皮膚化膿症）の初期に、 金銀花・天花粉・乳香 などと用いる「仙方活命飲」。 化膿したが排膿しないときは、 黄耆・当帰・皂角刺 などと用いる「透膿散」。 瘰癧（頸部リンパ節腫）、痰核（皮下結節）にも、 夏枯草・貝母・牡蠣・玄参 などと用いる。 通絡散風 風湿痺の関節痛、肢体のこわばり、運動障害などに、 羌活・防風・川芎 などと用いる「透経解攣湯」。 風湿頑痺の関節変形には、 地竜・蜈蚣・白花蛇舌草・烏梢蛇 などと用いる。	3～9g、煎服。散として用いるときは 1回1～1.5g服用する。
		使用上の注意 黄色になるまで炒して用いる。 行散の力が強いので、過量を用いてはならない。 妊婦、癰疽が潰破したのちは禁忌である。	